

初弾「楽コンランド」開設



参加者が自由に体験できる

地域建設企業の支援などを続けている測量関連メーカー6社で構成する有志連合、CONTACT（建設戦略会議）は、茨城県行方市に初弾となる『楽コンランド』を開設した。i-Constructionの中小規模現場へのさらなる普及を後押しする。遊園地のように参加者が自由に体験できることをコンセプトに、『小規模施工』など五つのゾーンを用意した。支援する自治体の工事受注者などに体験してもらう。

CONTACT

中小規模のi-Conn後押し

楽コンランドはCONTACT省や6県1政令市の職員などが視察に訪れた。

小規模施工ゾーンではカーブ上で杭ナビを使った施工（丁張、構造物設置、出来形）を体験できる。

このほか、▽床掘ゾーン（マシンガイダンスシステム・杭ナビシ

ヨベルを使用した測量、設計、施工、出来形）▽点群ゾーン（快速Scanを使用したLiDARスキャナによる点群作成）▽敷き均しゾーン（マシンコントロール・ブルドーザを使用）▽法面整形ゾーン（マシンガイダンス・ショベルカーを使用）——なども用意した。各ゾーン約15分で体験できる。

CONTACTの代表を務めるトプコンの吉田剛執行役員スマイトインフラ事業本部長は「従来施工と3次元設計データを使った施工の違いをよりリアルに体験できる」と紹介した上で「公共工事の多くを占める自治体発注工事を受注する建設会社の技術力の向上に貢献したい」と話す。

楽コンランドは今後、トプコンのその他のトレーニングセンタにも開設する。体験できる内容などはトレーニングセンタごとに変わる予定。また、CONTACTが協力する形で楽コンランドの自治体主催版などの計画もある。初弾として3月に山梨県が開催する予定だ。

CONTACTは、トプコンとオートデスク、建設システム、ジエノバ、福井コンピュータ、ベントレー・システムズの計6社で構成する。施工技術総合研究所がオペレーターとして加わり、地方公共団体との意見交換や課題抽出、地域建設企業への啓発活動などを展開している。

